０３／０７／２０　　礼拝メッセージ　　土井義広　副牧師

主　　題：神のみわざとあなたの選択
聖書箇所：コリント人への手紙第一　２章１０－１６節

前回２：１－９で、パウロが彼自身の前にあった選択肢、あるいは迷いに対して、彼は何ら恐れることなく、少しも変えることなく福音を語ること、キリストの十字架と復活を語って行こうと決心したこと、そのことを学びました。
パウロはユダヤ人やギリシャ人に伝道して行く時、彼らに気に入られないから、また反発があるからといって、語る内容を変えたりはしませんでした。彼らに受け入れやすいようにと、福音を曲げて、一部を省いたり付け加えたりするようなことは決してしませんでした。どんな抵抗にも、困難に遭おうとも大胆に福音を語っていったのです。私たちも覚えるべきことは、私たちがまだ神を知らない人たちに神のメッセージを語って行く時、多くの人たちが求めるような、また、受け入れられ易いからとして、聖書のみことばを変えてしまうようなことがあってはならない、ということです。しかし、このような傾向は増えて行っているようです。神の愛ばかりが強調されて、罪と悔い改めについてのメッセージが少ないのです。私たちが救われるためには、神の愛を知ること以上に、自分が罪人であり永遠の滅びに至る者だと知ることが必要です。このことを知らずして神の愛の本当の意味は分からないといってもよいでしょう。罪についてさばきについて悔い改めについて語られない教会も実は少なくありません。そして、残念なことにクリスチャン自身も福音を語らなくなっているのです。最も大切なことを語らない教会、またクリスチャン、確かに、この世でパウロのように人々に大胆に福音を語ってゆくことは難しいことかもしれませんが、神はそんな私たちにすばらしい贈りものをくださいました。それは福音の働きを助ける助け主です。それが今日の箇所です。私たちが福音を語って行くその務めを果たして行くために神が与えてくださった助け主、すなわち聖霊なる神がどのような働きをこの地上でなしてくださるのか、そして、それを学ぶことによって私たちが神の力をいただいて大胆に福音を語って行けるように願うのです。
　２：１０－１６から、神の助けである聖霊の働きについて学んでゆきましょう。

私たちの内におられる御霊なる神の働きとは？

I．啓示を与えてくださる　　１０－１２節
神のメッセージを私たちに与えてくださったのです。１０節に「神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。」とあります。神は私たちにさまざまなことを教えておられます。神の知恵、その救いなどです。私たちが救いのために知るべきこと、人間が生まれながらに罪人であること、罪の報酬は永遠のさばきであること、イエスが罪の身代わりに死なれ三日目によみがえられたこと、そのようなことへの理解は自分の力で得たわけではありません。神のことばである聖書を通して知ったのです。すなわち、聖霊なる神が私たちにメッセージを与えてくださらなければ、神のことを理解することはできないのです。ある人の心のうちはその人以外だれも分かりません。神の知恵、その考えも神にしか分からないことですが、神はそれを聖霊によって私たちに教えてくださるのです。ヨハネ１６：８を見ると「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。」とあります。神に関することは、人間の基準ではなく神の観点によらなければ分からないことだというのです。また、１０節には「私たちに啓示された」と書かれていますが、この「私たちに」が原語では一番初めに書かれています。パウロは第一に「私たちに」啓示されたのだと強調しているのです。神のメッセージはすべての人に平等に与えられているかと言うとそうではありません。「私たち」すなわちクリスチャンに与えられていると言うのです。前回学んだ１コリント１：２６以下を見ると「兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんなさい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。 27 しかし神は、知恵ある者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。 28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。」と、何のとり得もない者が神の一方的な恵みによって救われたこと、真の神について、永遠のさばきがあること、そのさばきから救われるためにどうすれば良いのか、それらを知っているのはクリスチャンしかいない、と言うのです。神からの啓示を受けているクリスチャンこそそれを語ってゆくのだと言います。

私たちが熱心に語らなければ、この国に福音を聞く人が増やされていかないことを覚えましょう。神はクリスチャンに啓示を与えて神のことを分かるようにしてくださったのです。

II. みことばの理解を与えてくださる　　１３節

１３節「この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。」。「御霊に教えられたことば」とは何でしょう？エペソ６：１７を見ると「救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。」とあります。「御霊の与える剣である神のことば」、すなわち「聖書」です。また、IIペテロ１：２０，２１には「それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。」とあります。聖書の預言はすべて「神のことば」だと言っています。「御霊のことば」とは「聖書」のことであり、聖書は聖霊によって書かれたと言います。聖霊がいろいろな人を通して「聖書」となり、私たちに与えられているのです。そしてまた、聖霊は私たちにそのみことばへの理解を与えてくれるのです。１０節「御霊によって私たちに啓示された」とか、１２節「恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。」、１３節「その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。」とある通りです。救われる前は、聖書を読んでもよく分からないことがありました。聖書のみことばは自分に対して何を語っているのか、それは、聖霊の助け、その導き、働きによってこそ理解できるのです。これを《聖霊の照明》と言います。はっきり明るく照らされてみことばがよく分かるのです。

そのために必要なことは何でしょう？それはみことばをより深く学んでゆくことです。みことばの瞑想、みことばの吟味、神が自分に教えてくださることを求めてみことばに向かうことです。クリスチャンのうちに在る聖霊がその理解を与えてくれるのです。

III. みこころを示してくださる　　１４－１６節

◎１４節の「生まれながらの人間」とは？

１４節には「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。」とあります。「生まれながらの人間」がどんな人か、みことばははっきりと教えています。エペソ２：３を見ると「私たちもみな、かつては不従順の子らのなかにあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」とあります。「私たちはみな」とすべての人が滅びに向かっているのだと言っています。また、ヨハネ３：３でイエスはニコデモに対して「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」、同じ５節では「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。」と言われました。すべての人間には救いが必要なのだと教えています。神はきよく正しいお方ですから、罪を見逃すことはできないのです。また、「愚かなことだから」と、信仰を持たない人は自分の選択で神を受け入れようとしないと言うのです。自分でそのように決めていると言うのです。１：２１には「事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」とあります。自分の知恵で神を知ることはできないのです。そのような人に約束されているのは永遠のさばきです。人間の知恵はどれほどであっても、神から見れば大したものではありません。それなのに、人は自分に頼ろうとするのです。

◎なぜ、彼らは悟ることができないのでしょう？

１４節には続いて「また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。」とあります。これは、聖霊が与えられていないから救われないのだという、神の観点を教えています。聖霊がわざをなして人を救いへと導くからです。人を救うのは神のわざです。ですから、私たちは伝道するとき「祈り」が必要なのです。「祈りの共有」、このとりなしの祈りが大きな力となるのです。

◎わたしたちがなすべきことは何でしょう？

１５節には「御霊を受けている人は、すべてのことをわきまえますが、自分はだれによってもわきまえられません。」とありますが、この「わきまえる」ということばは「知られる」とか「判断する」という意味です。英語では「さばく」ということば、ジャッジと訳されています。私たちは聖霊によってすべてのことを判断して行けるのです。神が何を望んでおられるのかを知り、神のみこころが示されてそれに従って行くことができるのです。神のみこころが示されるのはクリスチャンにだけです。まず、

聖書によってそれが明確に示されます。そのみことばに忠実に従ってゆくこと、クリスチャンは１００％そのようであるはずです。そのときに、私たちに神はみこころを示してくださるのです。
これらはすべて神の働きです。聖霊なる神の働きです。それと同時に、私たちには「選択」があることを教えています。たとえば、救いに関していえば、聖霊なる神が働きをなしてくださって、私たちのうちに罪について、義について、さばきについて教えてくださるのですが、それを信じて受け入れるか受け入れないかは、私たちの「選択」にかかっているのです。私たちには【選択の責任】があるのです。
パウロは３章以下、神のさばきがあることを教えて行きます。私たちはいつか神のさばきの座に立ちます。どのように選択し、どのように生きてきたかが問われます。
パウロは福音をそのまま語ってゆきました。人を救うのは神のわざだと知っていたからです。私たちも神の力によって大胆に福音を語ることに専念して行きましょう。